（様式１）

学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立東戸山小学校

■　学校の共通目標

授業づくり	重点	・毎時間の「ねらい」の提示と個に応じたスモールステップの学習過程をもとに、基礎・基本の定着を図る。	中間評価	・「ねらい」を明確にした授業はできてきている。個に応じた学習過程の工夫を一層取り入れていく。	最終評価	
環境づくり		・ユニバーサルデザインの視点を生かし、教室等の掲示を工夫して、落ち着いて学習に取り組める雰囲気づくりに配慮する。		・教室の前側はすっきりとさせ、横や後ろ側には、児童の思考を助ける掲示を心掛けている。		

■　学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課　題（10 月）	改善のための取組み（10 月）	最終評価（２月）
1	国語	学 ・ひらがな、カタカナ、漢字の学習に意欲的に取り組んでいる。 ・主人公が考えたことを想像し、発表することが好きである。 ・本を読むことが好きな児童が多い。	・文を書く際、ひらがなの拗音や促音、カタカナ、漢字を正確に使うことに課題がある。 ・友達の考えを聞く姿勢が身に付いていない児童がいる。	・日常的に、文を書く時間を多く設定する。 ・家庭学習で「日記」の課題を出し、自分の思いを文で表す楽しさを味わわせる。担任は、毎回コメントを書き、児童の意欲向上につなげる。 ・音読劇などを行い、主人公になりきって、発表させる。	
	算数	学 ・自分の考えを発表することが好きな児童が多い。 ・単純な計算問題を解くことはできるが、問題の形式が変わると、何を答えればよいか分からない。 ・課題解決への時間の差が広がってきている。	・友達の考えを聞く姿勢が身に付いていない児童がいる。 ・言葉の習得に差があり、課題を把握できない児童がいる。	・少人数加配講師を活用し、時間配分など個に応じた指導をする。 ・発問は、できるだけわかりやすく、短く行い、児童の発言に寄り添いながら授業を進める。 ・全員に課題を把握させるため、教材の準備などを工夫して行う。	

学年	教科	学習状況の分析（４月）	課　題（４月）	改善のための取組み（４月）	中間評価・追加する取組み（10 月）	最終評価（２月）
2	国語	学音読や暗唱に意欲的に取り組んでいる。 ・漢字学習を楽しみにしている。	・語彙力が不足しており、文章の読解に課題がある。 ・発言時の話し方や声の大きさに課題がある。 ・文字を書くのに時間がかかり、正確でない場合がある。	・朝学習や朝の会を活用し、スピーチをしたり、読書をしたり、言語に触れる機会を増やす。また国語の学習の中で、語彙について適宜確認する。 ・漢字のビンゴカードを用い、楽しみながら漢字学習に取り組めるようにし、国語の学習の中で字形や読み方など基礎・基本の定着を図る。	・毎朝のスピーチや音読劇の学習をすることで、文章の読解が高まり、話し方や声の大きさを意識し始めた。 ・漢字のビンゴカードや小テストを用いることで、字形を意識して書くことができるようになってきた。さらに普段から正確に丁寧に書くことができるようにする。	
	算数	学単純な計算問題を解くことができている。 ・計算の速さは個人差が大きい。	・文章題を解くときに、（加法か減法かの選択、問題文の構成理解など）立式を正しくできないことがある。	・国語科とともに語彙力を高め、問題を読むときに、どのように読み解くのかを確認する。また単元に応じて一人一人の学びやすい環境を確保する。 ・朝学習や算数チャレンジの時間を活用し、基礎・基本の知識・技能の定着を図る。	・加法や減法の問題を読み取り立式することが出来てきた。 ・乗法の問題を読み取り、立式することに課題がある。 ・問題を読み取るときに大切な部分を確認したり、線を引いたりする。 ・繰り返し学習をすることで、基礎・基本の理解が深まった。	
3	国語	調領域別でみると、「話すこと・聞くこと」の正答率が低い。一方、「読むこと」は、すべての問題で目標値を上回っている。 学学習に対する意欲が高く、読書習慣、家庭学習が身に付いている。話す・聞く場面の充実が必要である。	・文章を読み取ったり、書いたりする力の個人差が大きい。 ・漢字を適切に書くことが課題である。 ・順序立てて話したり、要点を押さえて聞いたりすることが課題である。	・図書の時間を活用し、読書に親しみ文章に慣れさせる。 ・朝学習の時間や家庭学習を通して漢字の定着を高める。 ・朝の会や帰りの会、各学習活動の中で、話型指導、聞く姿勢の指導をし、話すこと・聞くことの力を高められるようにする。	・図書の時間を週一回入れたり、読み聞かせをしたりすることで、本に親しむようになってきた。 ・ミニテストを適宜行うことで漢字の自主学習が定着するようになってきた。	
	算数	調数直線の読み取り、かさの単位の大小の判断、九九を適用して問題を解くなどの問題の正答率が目標値を下回る。理解した内容を活用する力が課題である。 学基本的な計算を正確に処理することができる。発展問題に戸惑い、理解したことを活用できない状況が見られる。	・学習内容の定着度の個人差が大きい。 ・文章題に苦手意識がある。言葉の習得に個人差があり、内容を読み取れない児童がいる。	・習熟度別の学習を基本としレディネステストを使ってクラス分けを行う。 ・算数チャレンジの時間を使い、繰り返し学習をすることで基礎・基本の定着ができるようにする。 ・問題の中に生活場面を入れることで、身近なことで活用できるようにする。	・習熟度別学習を継続していることで、児童の実態に合わせた指導ができている。 ・繰り返し学習をすることで、計算力が上がってきた。 ・自分たちの生活場面を取り入れた問題にすることで、興味関心が高まり、理解が深まった。	
4	国語	調領域別でみると、「書くこと」の正答率が低い。学年相当の漢字に加え・２段落構成で文章を書くことが課題である。 学読み書きに関しての個人差がとても大きい。（以下Ａ層Ｂ層Ｃ層とする）そこで、Ｃ層の言語に関する学力の引き上げ・Ｂ層Ａ層に対する書く力の定着が必要である。	・基礎的・基本的内容の定着に課題がある。 ・特に書くに課題がある。	・朝学習や漢字検定を通して、児童の学習基盤を築く。 ・夏休みまでに学習する漢字（９３文字）毎週火・木に漢字テストを行う。家庭学習と連携し、繰り返し漢字を書くことで習得を目指す。話す聞く姿勢の定着を図るため、話型指導を行う。 ・授業のねらいを明確にし、表現の意欲を高める。	・漢字検定では、自分がどの漢字で間違えたか見直し、繰り返し練習を行うことで、合格者が増えてきた。 ・家庭学習と連携して行うことで、漢字の定着が見られるようになった。定着と同時に書き順や読み方にも気を付けて書けるようになった。 ・授業のねらいが明確になることで、児童自身が今の時間に何をするか見通しがもてるようになった。	
	算数	調数直線の読み取り、円と球・乗法の計算などの問題の正答率が目標値を上回っている。一方で、わり算の定着が目標値を下回っている。 学基本的な計算問題（特にわり算に関して）繰り返し、問題を解き、慣れていく必要がある。	・基礎的・基本的内容の定着の個人差が大きい。 ・定規等用具の使い方が十分に身に付いていない	・習熟度別指導の学習を基本としレディネステストを使ってクラス分けを行う。 ・算数チャレンジの時間を使って、計算問題や既習の学習問題を繰り返し行い、基礎・基本の定着を図る。 ・視覚的情報や具体物を活用し、実際に体験しながら学べる環境を確保する。	・習熟度別指導を行うことで、児童の実態に合わせて学習を進めることができている。 ・苦手な計算問題など算数チャレンジを活用し繰り返し行うことで、計算力が上がってきた。 ・具体物を提示することで、より意欲をもって学習に臨むことができている。	

5	国語	調昨年度に比べて、平均正答率が6ポイント上がった。 調領域「読むこと」は目標値よりも大きく上回っている反面、「言葉の学習」の正答率は、目標値よりも下回っていた。 学提出される課題やワークテストの状況を見ると、漢字の読み書きや語彙の理解などが十分に定着していない状況が見られる。	・書くことに苦手意識を強くもっている児童が多い。 ・学習内容の定着が図られていない。	・話し合う、意見を交換する活動を取り入れ、考えを発表したり作り出したりする場を作る。 ・音読を繰り返し、聞き手を意識した声の出し方を練習する。朝学習や漢字検定を通して、漢字の定着を図る。 ・初発の感想を書く、学習感想を書くなど、書く活動を通して、自分の考えを表現していく。 ・宿題以外でも、自主的に学習できるノートを用意し、繰り返しドリルや問題に取り組めるようにしていく。	・物語文の学習で、考え方の話し合いや、意見交換を取り入れていった。何度も繰り返すうちに、自分たちで伝えることができるようになっていった。 ・学習感想を書く活動を通して、1時間の学習で何を学んでいたのかをしっかり振り返ることができるようになっている。 ・漢字の宿題方法を2学期より変えている。繰り返し取り組むようにさせているので徐々に定着しつつある。	
	算数	調昨年度に比べて、平均正答率が2ポイント上がった。 調「角の大きさ」は目標値よりも上回っている反面、その他の領域の正答率は、目標値よりも下回っていた。特に領域「数と計算」の正答率が目標値よりも7ポイントも低いことが気になる。 学授業の様子やワークテストの状況を見ると、図形をかいたり、複雑な計算をすることが苦手である。	・四則計算が課題となる児童が多い。 ・自分の考えを図や言葉を使い説明できる児童が少ない。	・習熟度別の学習を基本としレディネステストを使ってクラス分けを行う。 ・朝などの時間を使って、基礎・基本の定着を図る。 問題把握、課題解決、発表・交流、学習感想を通して考えを深めていけるようにしていく。 ・資料や図を用意し、児童の考えの手助けとなる工夫をしていく。 ・宿題以外でも、自主的に学習できるノートを用意し、繰り返しドリルや問題に取り組めるようにしていく。	・学習パターンを固定することで（課題把握、課題解決、発表・交流、学習感想）、考えを深められるようになってきている。 ・タブレットPCを使うことで、資料や図の読み取りの手助けとなっている。 ・コースによってプリントで学習を補充することで、基礎・基本の定着につながっている。	
6	国語	調観点別では「書く能力」が著しく低い。「関心・意欲・態度」「読む能力」が次いで低い。平成２８年度は全国平均、区平均との開きが、わずかではあるが広がった。 調得点別では、D層の割合が最も高く、次いでC層ある。A層、B 層は１５ポイント弱である。平成２７年度と比較すると、下位層の割合が微増した。 学物語文の読み取りにおいては、登場人物の心情を感性豊かに表現する児童が多い。ワークテストの状況を見ても、一定の成果を上げている。	・授業における学習規律、及び、家庭における学習習慣がまだ確立、定着していない様子が見られる。 ・授業中の発言、自力解決等、意欲的に取り組む児童が多いが、個人差もある。 ・文章構成や語句の使い方を手がかりに、筆者の主張、主題や要旨を読み取る力がやや不足している。 ・問われていることを的確に捉え、自らが伝えたいことを効果的に表現するための文法（主語、述語、接続詞等）が身に付いていない。 ・漢字の習得に個人差がある。	・発問、指示を工夫し、児童同士の充実した学び合いを促せるようにする。 ・話型を活用し、考え・意見を発表し、交流する場を設けることで、児童自らの考えや意見を相手に伝えられるようにする。 ・作文の書き方の基礎・基本の指導を徹底する。 ・説明文の指導において以下のことを重点的に行う ・文章構成を捉える。　・事実と意見を弁別する。 ・主張や主題を捉える。　・文法を理解する。 ・要約文を書く。 ・話し合いや意見を交換する活動を取り入れ、考えを発表する場を作る。 ・音読を繰り返し、聞き手を意識した声の出し方を練習する。 ・朝学習や漢字検定を通して、漢字の定着を図る。 ・毎日、書く活動を取り入れ、自分考えを表現できるようにする。	・学習規律の定着が図られた。 ・課題解決型の学習に対して、学び方が身に付いてきた。 ・正しい文法で、段落を意識した文が書けるようになった。 〇読解力 ・順序を表す言葉や段落の構成など文章を読み取るために必要な事項に着目したり、見付けたりするよう指導する。 ・何のために、何を読み取るかを明確に示した上で、必要な箇所にラインを引かせるなど原因や根拠を探す方法を指導する。 ・疑問に思ったことや、最も重要だと思われる部分などを書き出させる。 ・読み取った内容に対して、自分なりの意見をもたせ、表現させる。	
	算数	調観点別を見ると、平成２７年度は「関心・意欲・態度」「数学的な考え方」「知識・理解」の順で、目標値を下回ったが、平成２８年度は「数量や図形の技能」が最も低い結果となった。 調得点別では、D層が最も高く、C層と合わせると７割近くにまで達する。これは、平成２７年度と同様の傾向である。 学基礎的・基本的内容の徹底に向けて、スモールステップでの学習、及び、ICT 機器の活用が効果的である。児童も意欲的に取り組んでいる。	・学習規律、学習習慣の定着においては、国語と同様である。個別指導を要する児童の割合が多く、習熟度別の指導を効果的に活用している。 ・基本的な知識、技能の定着においては、個人差がかなり見られる。 ・問題場面を捉えたり、既習事項を活用して問題を解決したりする力がやや不足している。 ・自分の考えを図や言葉を使い説明できる児童が少ない。 ・四則計算が正しくできず、分数や小数の計算でつまずく。 ・既習事項が十分に定着していないため、完答に結び付かない。	・互いに考えを伝え合い、話し合うことにより、自らの考えや集団の考えを高め、発展させられるような授業展開ができるよう工夫する。 ・課題提示を工夫することによって、児童に解決の見通しをもたせ、自ら学んでいけるようにする。 ・体験的活動を工夫することによって、課題の発見と解決に向けて、主体的・協働的に学んでいけるような学習活動を推進する。 ・学習の振り返りの活動を授業の中に位置付け、成果の確認や次の学習への見通しをもてるように習慣付ける。学習内容の定着を図るため、ドリルやプリント等で繰り返し練習を行う。 ・問題解決型の学習を計画的に取り入れる。 ・問題を数直線や図等に表し、解決させる指導を繰り返し行う。 ・習熟度別の学習を基本としレディネステストを使ってクラス分けを行う。 ・算数チャレンジの時間を使って、基礎・基本の定着を図る。 ・ノート指導を通して、理解が深まるまとめ方を工夫する。	・前学年までの学習内容の定着に向けて、単元の導入に復習に取り組んだことにより、既習事項、基礎・基本の定着が図られつつある。 ・課題解決に向けて、考えを巡らせて解法を探り、ねばり強く解決しようとする姿勢が身に付いてきた。 〇問題解決能力 ・作業的学習を多様に取り入れる。（操作活動、図表の制作等） ・グループ学習や集団学習を多様に組み込む。（協力して学ぶ場、話し合える場） ・単元の終末に、学習のまとめ、復習の時間を設定し、学習内容の定着を図る。	
音楽	・音に親しみ、表現活動を楽しむことができる。 ・音楽的な知識や既習内容、技術の定着に課題がある。		・音楽の楽しさを感じ取ることはできるが、学習として定着が図られていない。 ・規範意識、学習のルールやマナーの徹底、基本的な知識の習得に課題がある。	・学習環境を整え、音楽の様々な領域に興味をもたせる工夫をする。１時間のめあてをしっかりもたせる。 ・学習のルールやマナーを明確にし、規範意識を高め、基礎・基本の定着と徹底を図る。	・学習環境を整えたことにより、授業に集中できる状態をつくることができた。また、様々な楽器や音楽の情報を得ることができ、意欲向上につながった。 ・音楽会に向けてのスモールステップもあり、意欲的に参加するようになった。	
図工	・作り出す活動を楽しんでいる。 ・低学年・中学年：時間を惜しんで作り続けている。 ・高学年：既習事項を生かそうとしている。		・立体から平面へ、平面から立体へ、見方を変えること。 ・学習活動に見通しをもち、時間を守ること。	・関連する題材(粘土で立体に作ったものを絵に表すなど)を意図的に配置する。 ・指示や板書を工夫し、学習の見通しがもてるようにする。	・立体に表すことに比べて、平面で絵に表すことに苦手意識をもつ児童が多い。具体的な操作活動を描画のきっかけにするなど授業の導入をより工夫していく。	
特支	・学習意欲が高く、新しいことができるようになりたいという気持ちが強い。学習したことを繰り返し確認することで知識が定着する		・集中力を高め、持続する時間をのばすこと ・一人一人の課題や理解の仕方に大きな違いがある。	・集中力を高める学習課題の設定や、ツールを活用する。 ・一人一人に合った、学習課題や教材の作成、指示の出し方を工夫する	・児童の実態に応じたグループ分けをさらにきめ細かく行う、パーテーションを使用するなどの学習環境の整備を行い、集中できる時間が伸びてきている。課題によって具体物を与える、絵で示す等の工夫をすることにより、課題に安心して取り組めてきている。	

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況